

入札等監視委員会の議事概要の公表について

北九州市入札等監視委員会の令和7年度第1回定例会議を次のとおり開催したので、別添のとおりその議事概要を公表する。

記

開催日時 令和7年5月21日（水）15：00～16：30

開催場所 本庁15階 15C会議室

令和7年度第1回北九州市入札等監視委員会 議事概要

1 会議名

令和7年度第1回北九州市入札等監視委員会

2 開催日時

開催日時 令和7年5月21日(水) 15:00~16:30

開催場所 本庁15階 15C会議室

3 出席委員(五十音順)

古林 節子、中里 彰宏、樋上 弥寿子

4 議事

(1) 令和6年度第4四半期の工事契約状況等の報告

ア 次の事項について報告した。

- ・工事契約件数及び契約金額について
- ・建設工事等有資格業者に係る指名停止及び資格取消について

(2) 令和6年度第4四半期の工事契約抽出案件の審議

ア 抽出方法について

審議する案件は、令和6年度第4四半期に契約をした工事の中から、森江委員が10件(契約課契約分9件、東部整備事務所分1件)を抽出した。

イ 審議における質疑等

(問) 一般競争入札による建築工事で、入札参加業者数が多く、金額が高いため、詳しい入札状況を知りたく抽出した。

(答) 竣工から50年ほど経過して、老朽化した市営住宅の屋上防水や外壁改修などを行う工事である。

比較的大規模な案件であったが、外壁改修など一般的な工事内容であり、仕様書どおりの施工で工事の品質も確保できることから、技術提案を評価する総合評価落札方式ではなく、建築Aランクを対象とする一般競争入札を実施した。参加申込業者12者のうち、1者が辞退し、11者による競争となったが、最低制限価格を下回った2者が失格となったため、3番目に低い金額で入札した業者が落札業者となった。

(問) 総合評価、一般競争入札による港湾工事で、技術点が1位で、落札金額が6位のため、詳しい入札状況を知りたく抽出した。

(答) 現在の廃棄物処分場が満杯になることから新たに廃棄物処分場を造成するための工事、中仕切となる鋼矢板を海底まで埋め込み、周囲に捨石を投入して護岸を築造する工事である。

潜水作業などは非常に困難で、専門性が高いだけでなく、安全対策に配慮が必要であることから、総合評価落札方式を採用した。参加申込業者9者のうち1者が辞退し、同日開札の別案件を落札した1者が取消しとなったため、7者による競争入札となった。落札業者の入札金額は6位であったが、入札価格の差はほとんどなかった。落札者は価格以外の評価がほぼ全ての項目で最高点であり、これらを総合した評価値で1位となったため落札した。

(問) 一般競争入札によるとび土工コンクリート工事で、参加業者数が少なく、金額が高いため、詳しい入札状況を知りたく抽出した。

(答) 複合公共施設を建設するための地盤改良を行う特殊基礎工事で、セメント状の固形剤を地面に注入して攪拌しながら地面を固めていくという特殊な施工内容の工事である。当初は、建築本体工事と一括して入札を行ったが、全社が辞退し中止となったが、今後の工事スケジュール等を考慮し、特殊基礎工事部分のみを本体工事と切り離して発注することとした。

大規模かつ施工内容も特殊な基礎工事であり、施工可能な業者も限られることから、地域要件を設けることなく、市の有資格業者名簿にとび・土工・コンクリート工事で登録されている業者を広く募集した。

参加申込業者は3者であり、いずれも最低制限価格を上回る入札金額であったため、最も低い金額で入札した業者が落札業者となった。

(問) 総合評価、一般競争入札によるとび土工コンクリート工事で、技術点が2位で、落札金額が2位のため、詳しい入札状況を知りたく抽出した。

(答) 丘の上に建っている中学校の法面部分に地滑りの変状が見られたことから、法面の崩壊を防止する工事を行うものである。学校の裏側が住宅地であることや授業等学校行事への環境的な配慮が必要であることから、総合評価落札方式を採用した。

市内に本店、支店又は営業所がある、とび土工コンクリートの業者を対象としたところ、参加申込業が4者あり、入札金額と価格以外の評価点がいずれも2位の業者が落札業者となった。この様な結果となった理由は、入札金額が1位の業者は価格以外の評価点が低く、価格以外の評価点が1位の業者は入札金額が高いという状況であったためである。

(問) 総合評価、一般競争入札による機械器具設置工事で、技術点が2位で、落札金額が1位のため、詳しい入札状況を知りたく抽出した。

(答) 門司区の太刀浦地区にある第2コンテナターミナルにある全3基のうち、最後の1基を更新する工事である。コンテナ船が大型化していることから、従来の仕様を変えた内容となっており、工場で作成したコンテナを海上輸送して設置するという難易度の高さや安全への配慮も必要な工事であることから、総合評価落札方式を採用した。

国内に5社あるコンテナクレーン製造会社のうち、3社から入札参加申込みがあり辞退等は無かったため、3者による競争入札となった。落札業者の価格以外の評価点は2位であったが、他の2社の入札金額が基準価格を上回っており、入札金額と価格以外の評価点を総合した評価値で1位となったため、落札業者となった。

(問) 指名競争入札による電気工事で、落札率が低いため、詳しい入札状況を知りたく抽出した。

(答) 施設の直流電源装置を更新する工事である。

発注課からは、発注先を非常用電源装置のメーカー代理店等とすることで、責任の所在を含めた信頼性が担保され、工期短縮やコスト縮減の面から合理的であるとの理由から入札業者推薦理由書が提出され、市内に営業所等の活動拠点を有する6者を指名することとした。

指名業者6者のうち1者は反応が無く、1者から辞退の申し出があったため、4者による競争入札となり、最も低い金額で応札した業者が落札業者となった。

工事費用のうち直接工事費に係る機器費の割合が高いため、最低制限価格を設けず入札を行った結果、落札業者の入札価格と予定価格に差があり、落札率が低くなったものである。

(問) 指名競争入札による機械器具設置工事で、落札率が高いため、詳しい入札状況を知りたく抽出した。

(答) ごみ焼却施設の操作室にあるオペレーションシステムを更新する工事である。発注課からは、焼却工場における機械器具設置工事の実績等があり、市内に営業所等を有する業者を推薦する理由書が提出されたため、当該推薦書にあった6者を指名することとした。

指名業者6者のうち、4者から辞退の申し出があったため、2者による競争入札となった。2者のうち1者が最低制限価格を下回り、予定価格と同額で消極的に応札した1者が落札業者となったことから、落札率が高くなったものである。

(問) 特命随意契約による土木工事で、1者の特命随意契約となった詳しい状況について知りたく抽出した。

(答) 川に架かる橋梁の架替工事に伴う交差点の切り替え工事である。

橋梁の上部工施工に際し、基礎部分である下部工の一部に追加で補強が必要であることが判明したことから、全体の工程に遅れが生じ、先行の工事では交差点の切り替えの一部が施工できない状況となっていたため、残工事部分を特命で発注したものである。

特命で発注した理由は、交差点の切り替えの途中で施工者が異なった場合、契約不適合責任の範囲が不明確となることに加え、継続した施工により工期短縮が図れることや経費削減を図ることが出来るためである。

(問) 特命随意契約による消防施設工事で、1 者の特命随意契約となった詳しい状況について知りたく抽出した。

(答) 市役所本庁舎の地階に設置している自動火災報知設備等の一部を浸水対策のため上階に移設する工事である。

特命で発注した理由は、他社製造メーカーの製品への改修は、装置の規格等が異なることから不可能であり、一部を他社メーカーの部品とした場合、システム全体の責任区分が不明確となり、人身事故や故障発生時の原因究明及び故障修理等の対応が困難となるためである。

(問) 指名競争入札による土木工事で、指名業者数が多く、落札率が高いため、詳しい入札状況を知りたく抽出した。

(答) 平成21年度の豪雨で被災した母原川と東谷川の合流部付近において、豪雨対策として、護岸の改修工事を行う土木工事である。

本件は、一度入札を行ったものの、応札者が1者であったため入札不調となった案件であり、工事内容の一部を見直して、別工事として入札を行った。当初の入札では、施工場所を考慮して、小倉南区における西部地区の土木工事を第1希望としているB・Cランクの業者を指名したが、入札辞退が13者、入札不参加が9者、応札者が1者となった。

地元から早期の施工要望が上がっていたことから、再度の入札不調を回避するため、指名業者数を増やす対策を行うこととし、小倉南区だけでなく、門司区や小倉北区の業者も含めて、64者を指名した。

64者のうち、15者からは反応が無く、34者から入札辞退の申し出があったため、15者による競争入札となった。入札の結果、5者が最低制限価格を下回って失格となり、次順位の業者が落札業者となった。